

## 平成31年度 第2層大森地域協議体 「おおもり支えあい協議体」の取り組み

### ○構成員

町内会長、民生委員、地域活動者、育英会役員・事務局長、共助組織、市職員、交流センター運営協議会委員、いきいきサロン代表世話人など（15名）

### ○定例会開催回数

平成28年度…4回、平成29年度…5回、平成30年度…5回、令和元年度…5回

### ○生活支援協議体(協議体)の取り組み

生活支援の充実が必要との声が多いものの、地区によって地域資源や生活課題は様々であることから、協議体構成員を地区毎に分けて意見交換を行った。なお、生活課題を支えあいにより解決していくためには、住民自身が地域の課題を知り、必要な取り組みを考えることが必要であるため、まずは、住民の関心が高い「防災」に関連付けて集う機会づくりを各町内に働きかけ、災害時に避難支援が必要な方の把握と併せて生活課題を把握できるように取り組みを進めることとしている。

#### 《主な取り組み》

##### ①地区ごとに必要な取り組みの検討

各地区の課題や地域資源などの実情を踏まえながら必要な取り組みを検討し、実現していくため、構成員が地区ごとに分かれてグループワークを行い、ゴミ出しや買い物、除雪などの生活に関する課題の意見交換や解決方法の検討などを行った。



～グループワークの様子～

##### ②自主防災組織の視察

防災への関心が高い住民が多いため、防災に関連付けながら住民同士が日常から災害時まで支えあえる地域づくりを進めようと、防災と交流の取り組みを併せて実施している自主防災組織の取り組みの視察を行った。



～自主防災の取り組みを視察～